



受験戦奏
轟音編 No.03

登場人物紹介

○橋 太郎
ラミラの専属マネージャー

○鶴河
???

○天王寺リョク
ピアノ・ヴァイオリン

○妃久井やす子
コントラバス

○音帝ラミラ
ヴァイオリン

○日清るう子
作曲

○野川百合
へるなの後輩

○音爪へるな
エレキギター

あらすじ

幼なじみでもありライバルでもある音帝ラミラが受験戦奏にエントリーしていることを知ったリョクは、彼女に勝負を挑む。しかし彼女は軽く断り、その場を去る。その後、へるなの企画したクリスマスパーティが開かれ、ラミラたち3人も混ざっての大騒ぎ。楽しい一夜を過ごす。年は明け、1月。受験戦奏にある噂が広がる。それは瞬時に十数人もの受験者を倒したとされる、通称「轟音」の噂だった……。 ※クリスマスパーティの話は、12月頃に特別編として公開予定です。



朝

やす子ー!

大学から
電話よー!

.....!?

大学から!?

オバツ



CALL

妃久井やす子さんは
受験戦奏の戦績が
まだ無いですよね?

あ、はい……

勝手ながら、本日
大学構内にて、
説明会があるんです

コントラバスの場合は、
弓だけ持参して頂ければ
良いので、

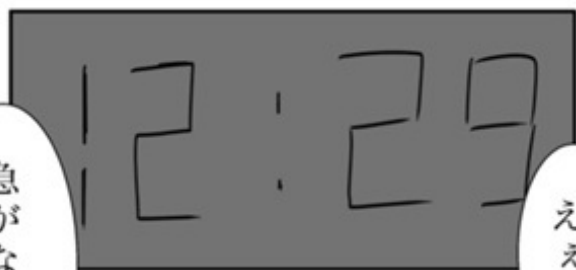
14時まで
お越し下さい

14時って……

大学まではたしか、
一時間ちよつと
掛かるから……

ええ!!

急がないと!!



無視してしまえば
私はそのまま
受験戦奏を辞退できたんだ



一般試験もこの時期なら、
まだ間に合ったし、

苦しい思いも
しなかった。

ぎゅっ...

ガチャ



だけど、
この時動いて
いなかったら……

私の音楽は、

鳴らなかつたかも
しれない——



3年前

やす子は小学校高学年になる頃から成績をのぼしていき、頃から中学入学から3年生になるまで、ほぼ満点に近い合計点数と、常に1位の順位を維持していた。

彼女を尊敬し、憧れを抱く生徒や教師も多くいたが、一方で、妬みやいらだちを感じる人たちも少なくはなかった。



男子からは
その頭の良さと
ひかえめな性格で
人気があったが、



人付き合いの
苦手なやす子にとって
は、
迷惑でしかなかった。

女子からは、
そのような理由から
妬まれ、完全に孤立。

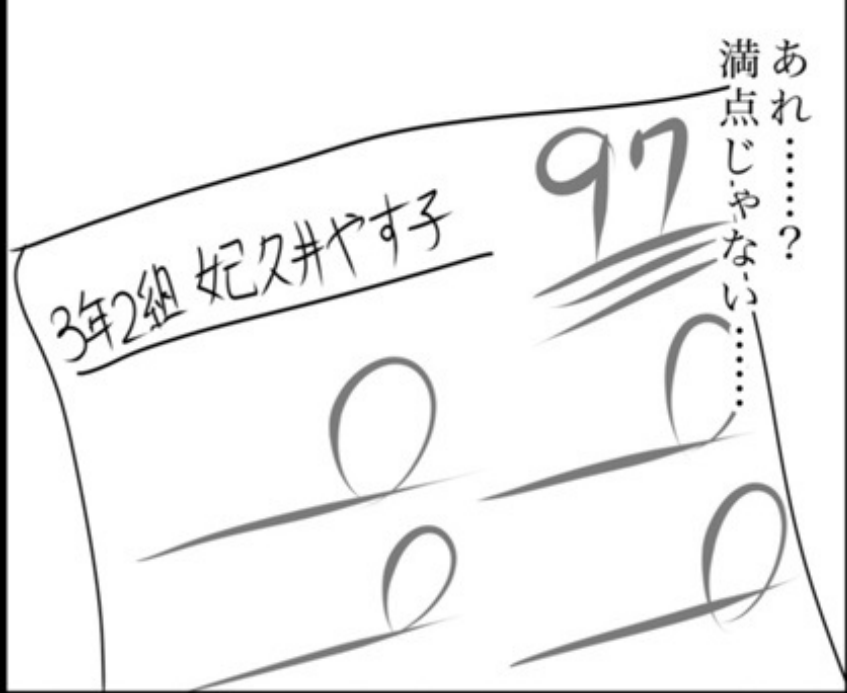


いじめを受ける以前に、
全く相手にされない立場に
追いやられていた。

3年の前期学期末試験。
不幸はさらに重なる
ことになる。

テストを
返しまーす





	成績
現代文	100
数学	97
社会	100
理科	100
英語	97

保健	100
音楽	97
家庭科	100

しかし――



書き換えは明らかだった。
やす子の担任教師と、
交友関係を持つ教師の教科が、
全て書き換えられていたのだ。



もちろん、総合順位は変わらず
1位のままだったが、
やす子の胸には深い傷が
残ってしまった。

教師たちの犯行理由は、単なる妬みだった。
新人の若い男性教師にやす子が気に入られていることが
気に食わなかっただけ……。
そんなくだらない理由で、一人の生徒の才能をつぶしていたのだ。

さらに教師の嫌がらせは
エスカレートし、
授業態度、
生活態度など、
評価基準が曖昧なものは、
全て点数を減らし、
やす子をさらに苦しめて
いった。

そこまであからさまな
いじめであるにも関わらず、
学校内には相談出来る相手が
いなかっただけで、ただ造られた結果を
受け止めることしかできなかった。





……

あの……

どうしたら
いいのかな……

……

気付けば私は……

つらいんだ

実はね、

先生たちが……

私の勘違いじゃないの

頑張つて勉強すれば
いいんだよね？

でも、頑張つても
むしろつらくなる
ばかりで……

人と上手く話せないだけで、
こんなにつらい思いを
しなきゃいけないの？

学校に行かなきゃ、
高校へ進学出来なく
なっちゃうし……

パパもママも、
昔はあんなに
仲良かったのに、
私が原因で喧嘩を
するようになったら
ちやって

部活も、
顧問の先生が
そのグループの一人だから、
私ばかり集中して注意
してくるし……

コントラバスに話しかける
ようになっていた――

子供の未来を支援するのが、
教師の仕事だよね？
なのに、どうして……
どうしてなの……？

友達がいたら、
こんなことになって
なかったのかな……？

春になり、
やす子は一般試験で
武宮音楽高校へと進学した。

学年一の成績で
ありながら、推薦を
もらえなかった理由は、
言うまでもない。

そして中学校の卒業式の
三日後、
両親は離婚し、
やす子は母と実家に
帰ることになった。

ただいまー!!

ガチャッ

パパ、今日はね、
近所のケーキ屋さんで

美味しそうな
チョコレートケーキ
買って来たんだよー!!



高校の教師や担任は
やす子に優しく接して
くれたが、

やす子の中で、
教師という存在は
既に全く信じられな
くなっていった。

高校に入学して間もなく、
やす子は不登校になり

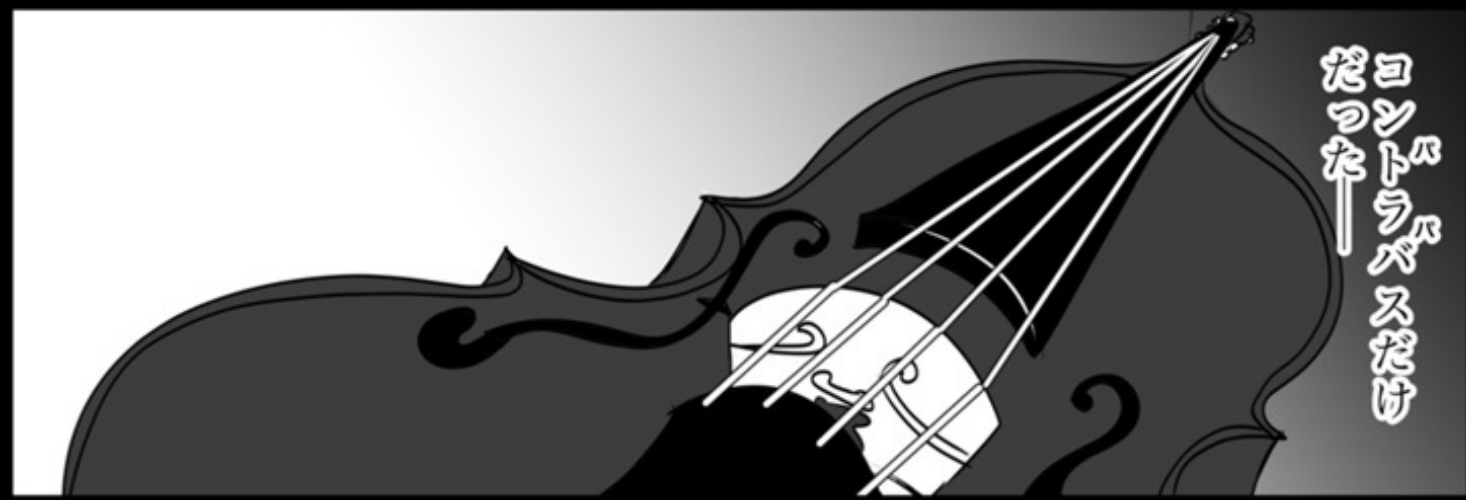
週に二度の
保健室登校をするよう
になった。

唯一信頼出来た人間は、

保健室の先生と、

はーい
お茶や

コントラバスだけ
だったー



いや……
間に合ってしまった……
はぁ……
間に合ってしまった……
というべきか……

間に合った……

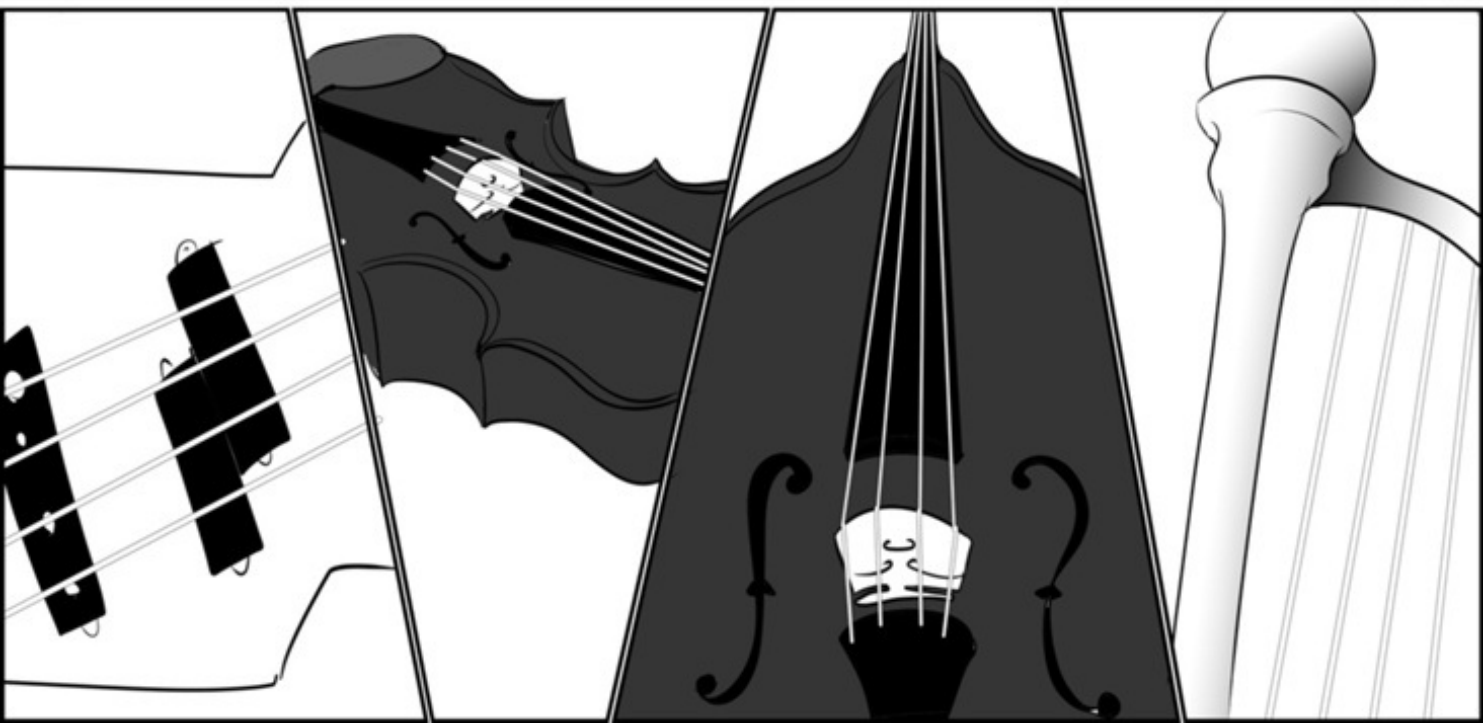
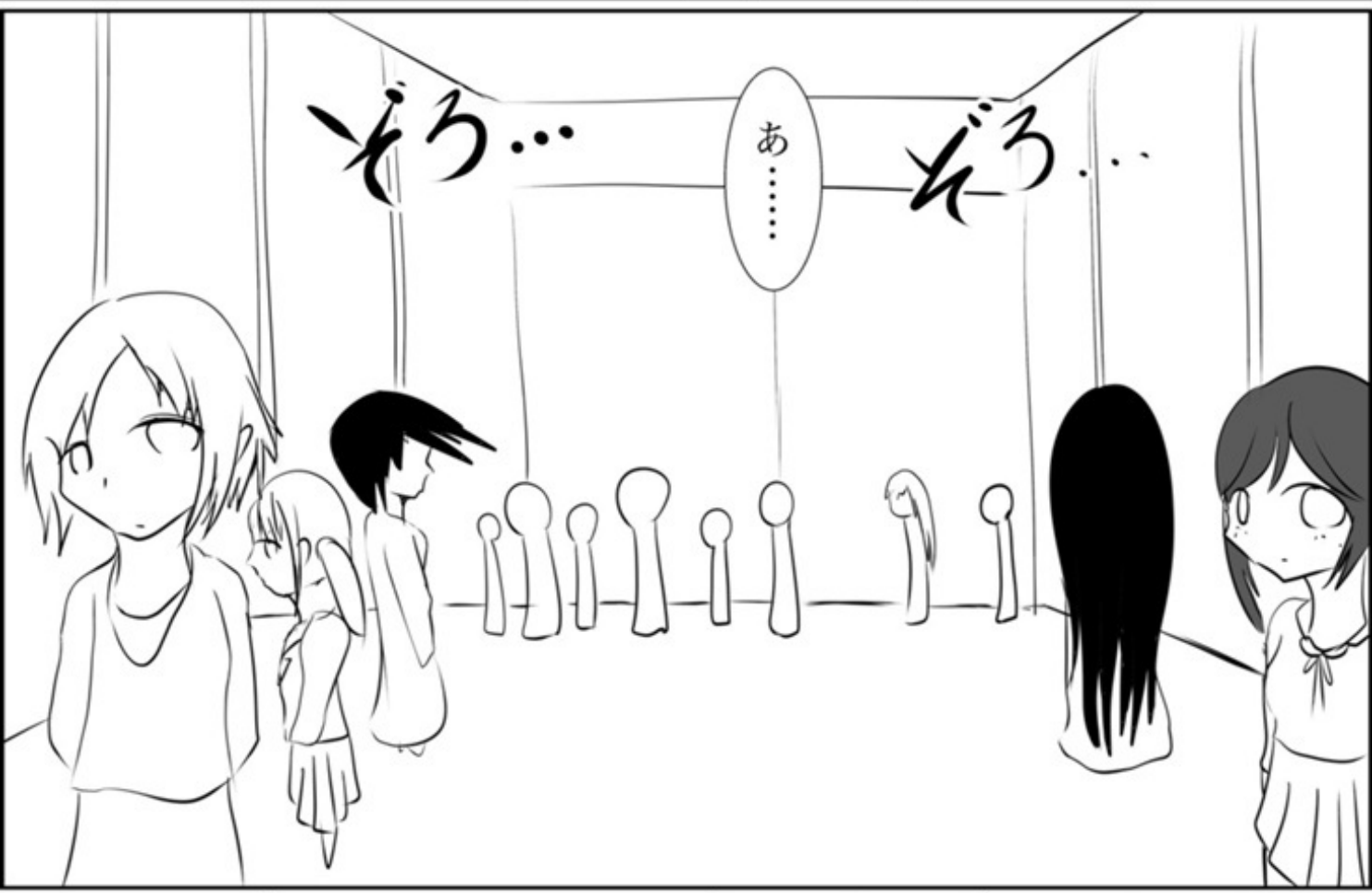


誰かが私を
呼んでいる音が
する……

なんだろう……

ぐわんぐわん……
ぐわんぐわん……





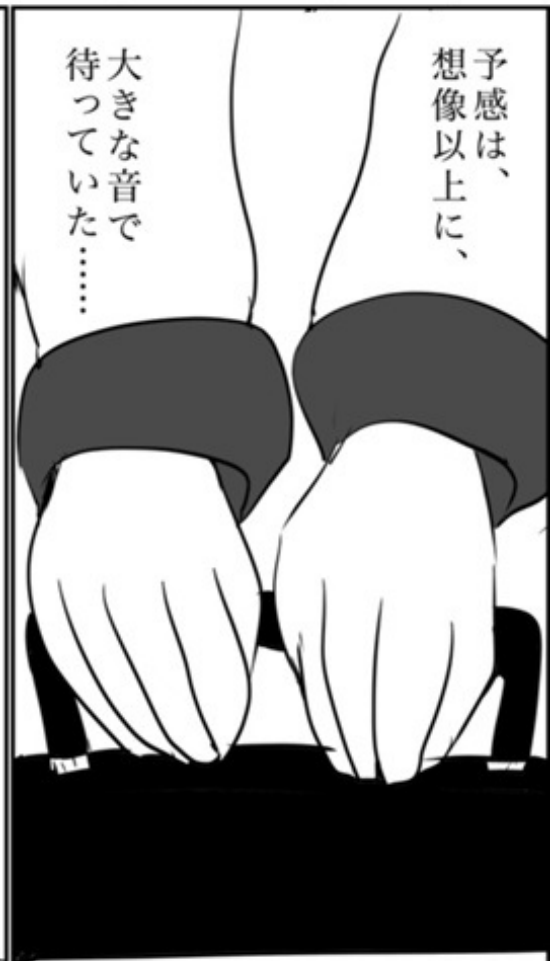
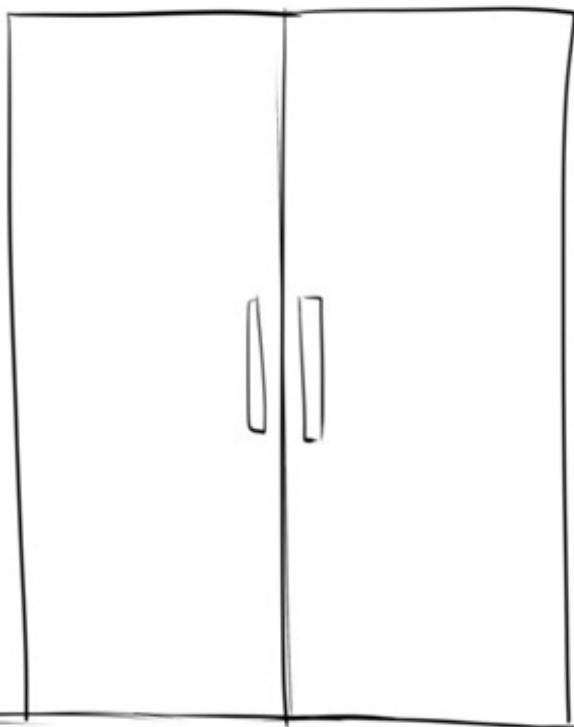


予感は、
想像以上に、

大きな音で
待っていた……

逃げ回る
モルモット
臆病者は、

足掻けば足掻くほど、
自分を窮地へと導いて
しまうのだ。



舞台は既に
用意されていたのだ。

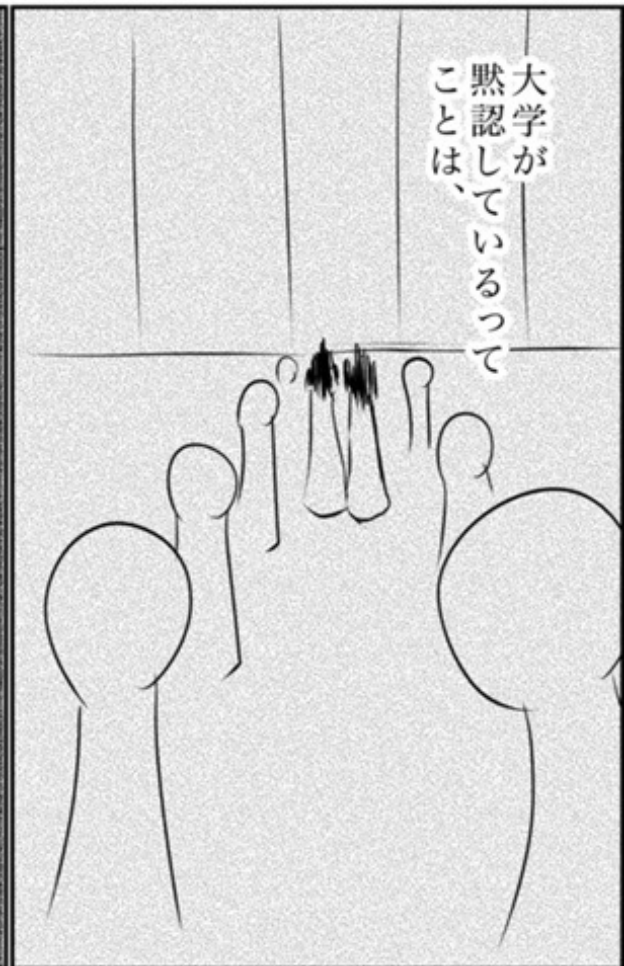
考えてみれば
何もおかしくはない。

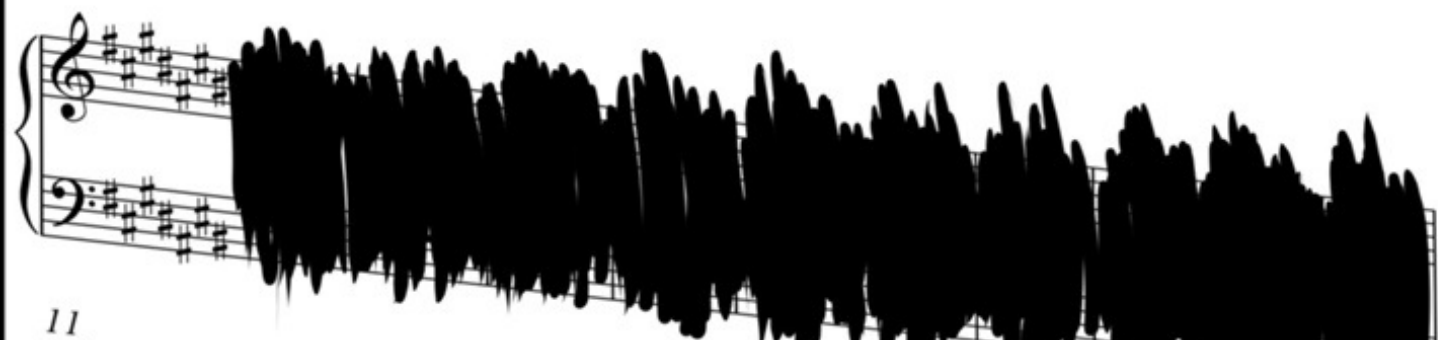


大学が
黙認しているって
ことは、

大学の
その存在を
認めて
いるって
ことなんだ。

轟音の存在を。





11

This system shows the first two staves of a musical score. The treble and bass clefs are visible at the beginning. The music is almost entirely obscured by a dense, black scribbled-out area that covers the notes and rests.




11

This system shows the next two staves of the musical score. Like the first system, the musical notation is completely hidden by a thick, black scribbled-out area.



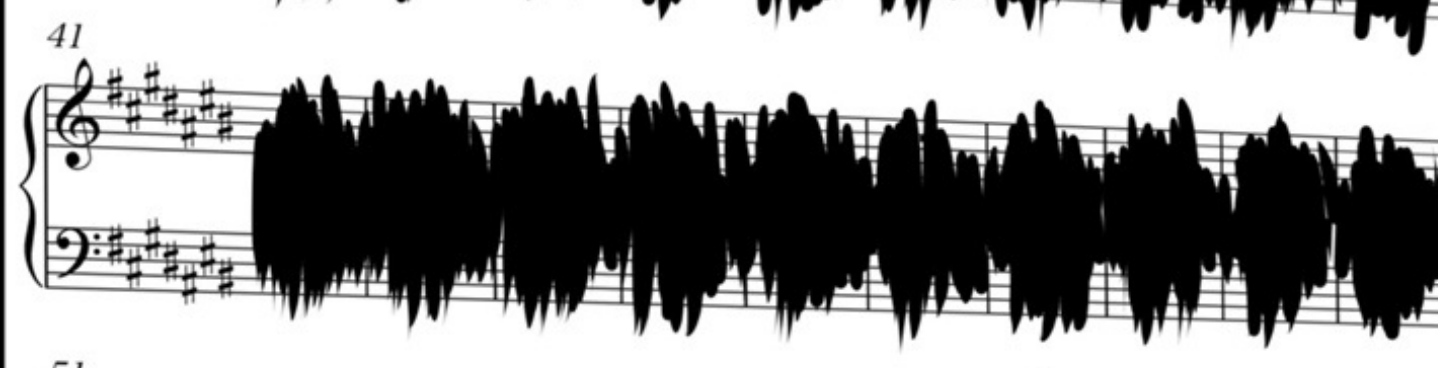
21

This system shows the third and fourth staves of the musical score. The notation is completely obscured by a dense black scribble.



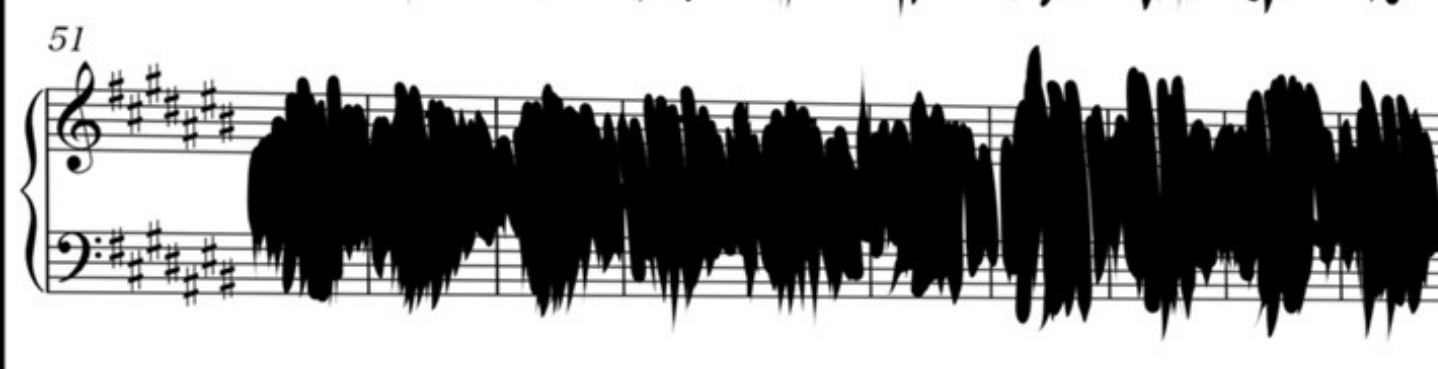
31

This system shows the fifth and sixth staves of the musical score. The notation is completely obscured by a dense black scribble.



41

This system shows the seventh and eighth staves of the musical score. The notation is completely obscured by a dense black scribble.

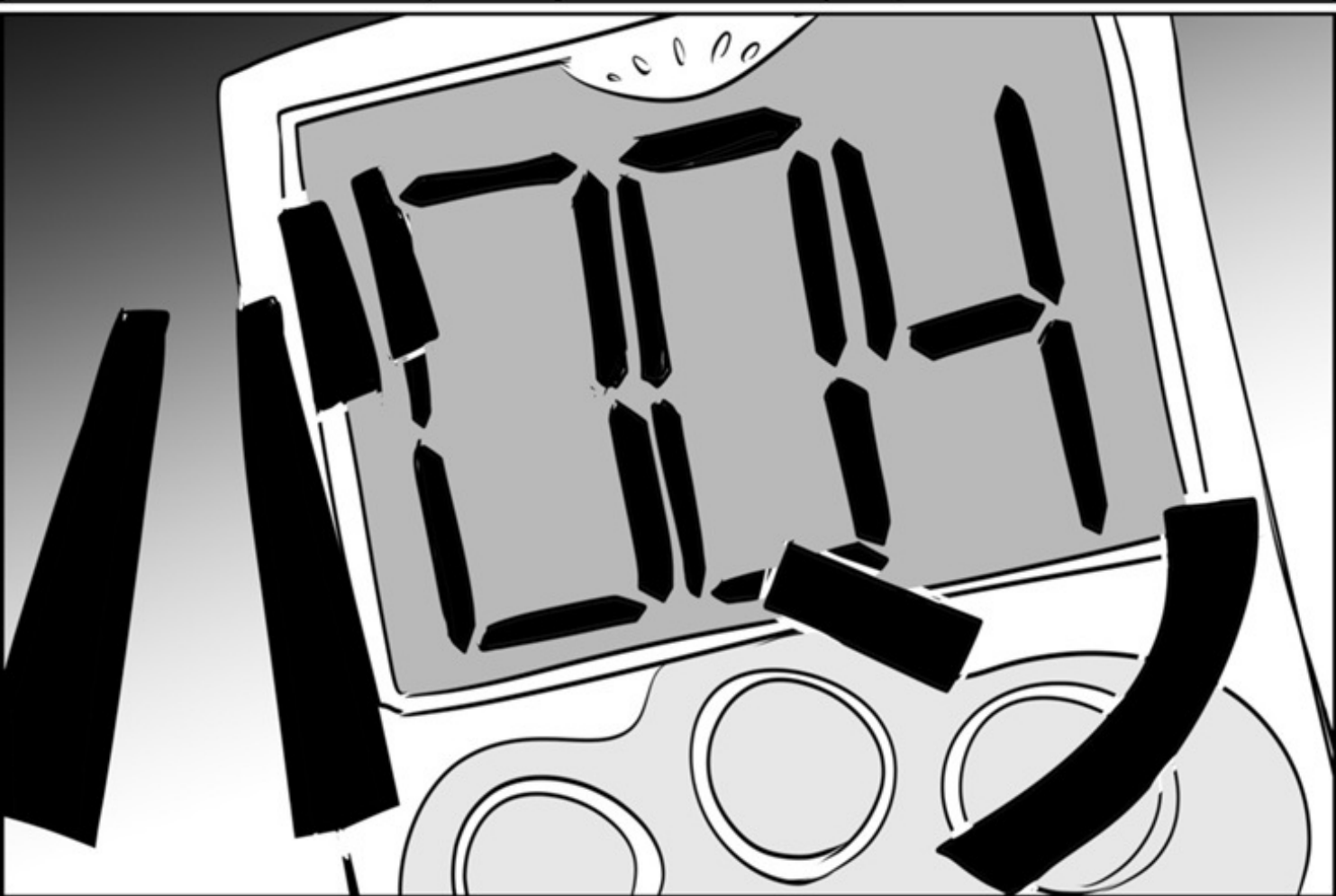


51

This system shows the ninth and tenth staves of the musical score. The notation is completely obscured by a dense black scribble.

ああ、
音が轟く――





続轟

く

音

編

N

0

4

に